



### CONTENTS

「カンボジア・スタディ・ツアー報告」	2
「Memories of Yamanashi 山梨の思い出」	3
JICA 通信「青年海外協力隊活動紹介」	4
Voice from Yamanashi, Despedida do Estagiários	5
Reportagem Charity Christmas, Cozinha Internacional	6
World Charity Christmas 2011 Report	
& Voice from Yamanashi ,etc.	7
Voice from Yamanashi	
「ポルトガル語翻訳・通訳 林 マイザ」	8
Cooking @ Home タイ家庭料理「ガイパッキン」	
Information	9
YIA Event Calendar	10

平成 23 年 11 月 27 日～ 12 月 4 日【6 泊 8 日】、「カンボジア・スタディ・ツアー」を実施しました。昨年の「カンボジア交流事業」で来県した 3 人が案内役となり、地雷除去後の土地の復興や生活再建に取り組む「現在のカンボジア」をこの目で確かめる貴重な機会となりました。小学校を訪問し、子どもたちや地域の人達との音楽交流、防護服を着用しての地雷除去現場の視察など充実したスタディ・ツアーとなりました。（詳細は 2 ページ）

Viagem de Estudos a Cambodia (entre os dias 27 de nov. à 04 de dez). Os três cambodianos que estiveram em Yamanashi no evento de Intercâmbio com a Cambodia no ano passado guiaram o grupo pelos locais em reconstrução, onde já foram retirados minas terrestres, sendo uma oportunidade única de observar e conhecer a realidade da Cambodia atual. O grupo visitou uma escola primária e também áreas onde estão sendo realizados a retirada de minas terrestres, vestindo coletes de segurança.

The "Cambodia Study Tour" took place from November 27 to December 4, 2011. The three guests of our previous year's event, "Cambodia Exchange Program" acted as our guides. This unique opportunity allowed us to see with our own eyes "present-day Cambodia", dealing with the reconstruction of land cleared of mines and the return to everyday life.

This enriching tour included school visits, music exchange with children and locals, and observation of sites being cleared of mines, while in protective clothing of course.



# カンボジアスタディツアー



平成23年11月27日(日)～12月4日(日)



## 「バタンバンの思い出」



11月30日、朝7:30にバタンバン中心のホテルから、3台の四輪駆動車に分乗し、CMACのチャン・ソンパーさんとGEJのモン・ソンパーさんの案内する車について行きました。今回の旅のメインのひとつ、NPO法人「豊かな大地」(GEJ)が建てたスラッパン小学校への訪問です。

カンボジアには未だ一億個以上の地雷が埋められているといわれています。特にバタンバンはタイとの国境もあり、一番多いとのこと。山梨日立建機がCMAC(カンボジア地雷除去センター)と連携して、地雷撤去の活動をしています。NPO法人「豊かな大地」では地雷除去後の土地の農地整備をはじめ、このような学校を建てたり生活支援活動を行っています。

ブノンペンからバタンバンに来る途中もそうでしたが、地平線まで続く田んぼや畑、ところどころに果物の木々が見えとても美しい風景でした。メインの道から少し入ったところで川の中で牛達が水浴びしていて気持ちよさそう...と思ったら、人間たちも茶色い水の中に...大丈夫かな?と思いつつも自由で楽しそうに見えました。

予定時間より30分遅れ9:30頃小学校に着くと門のところで校長先生や村長さんたちに迎えられ、また門から校舎まで子供たちがカンボジアと日本の旗を両手に持って、気温30度以上の暑い中出迎えてくれました。校舎は4つの教室とトイレが併設され、約100人の生徒(女子60人、男子40人)に対して先生がたった4人とのこと。景色もよく、のどかなところで、以前は地雷原の中だったとはとても想像が付きません。校舎の中に入って、校長先生、村長さん、教育局の局長さん、また美術学校の先生から歓迎と感謝のお言葉をいただき、私たち訪問者からは代表として高山先生にあいさつしていただきました。その後生徒たちの授業風景を見に教室へ入り、子供たちの描いている絵を見ることができました。周りの風景や身近な自分たちの住んでいる家や家族などが題材ですが、色をたくさん使い、太陽を入れて描く子が多く明るい印象。とにかく絵の上手さには驚きました。それからは私たちの折り紙教室です。私はせっかくなのでここで日本から持ってきた浴衣に着替えて、汗だくになって?子供たちに折り紙を教えました。

その後は全員校庭に出て美術学校から特別に来てくれた綺麗に民族衣装を身にまとった生徒さんたちのアプサラダンスの披露があり、また我が岩崎けんいちさんの「アラビア」の歌とパフォーマンス、みんなで歌いながら輪になって、最高に盛り上がりました。

ところで岩崎さんの隣で一緒になって一番盛り上がっていた人は誰でしょう?学校関係者でも父兄の方でもなく、楽しそうだからやってきた近所のおじさんのようでした。岩崎さんの人柄の良さや気持ちの大きさもありますが、どんなところでも盛り上がるカンボジア人も本当に楽しいです。

山梨から持参したプレゼントの贈呈後、みなさんと自由に交流の時間があり、特に着物に興味を持ってくれた美術学校アプサラダンスの先生や生徒さんたちに帯の結び方を聞かれたり、あちらの民族衣装のスカートのひだの折り方等おしえていただいたり、一緒に写真を撮ったりして楽しく過ごしました。

美術学校は孤児院だそうです。これからもみんな楽しく勉強もダンスもがんばって欲しいなと思いつつ、別れを惜しむつづつに向かったのは同じバタンバンのルセイロというところの地雷撤去現場でした。

カンボジアのお米は美味しく日本人の口に合いますが、特にバタンバンは一番おいしいお米がとれるそうです。そのせいか?バタンバンには美男美女が多く、俳優さんが多いそうです。

カンボジアはもともとは肥沃の土地でもあり豊かな国です。アンコール遺跡はその象徴です。近隣国との戦争の歴史もあったのですが、近代は大国に翻弄され、内戦、特にポルポト独裁政権下では人口の約半数もの尊い命が奪われてしまったと聞きます。地雷もその時々の戦争や内戦で埋められました。ポルポト時代の裁判も最近やっと始まっているようですが、その半面当時の軍人が今なお軍隊にもいて、「復讐しない」という国の理念が生きているのではないかと思います。地雷は対人及び対戦車地雷があり、その多くは、中国製、ロシア製、アメリカ製ですが、地雷の撤去を支援し技術協力している国は日本が一番だそうです。地雷で足を失っても笑顔がいっぱいカンボジアに勇気をもらいます。気の遠くなるような地雷原の広さと地雷の数に立ち向かって少しずつ撤去作業を続けている人たちの安全をお祈りいたします。

最後に(財)山梨県国際交流協会の雨宮さんはじめ、団長の高山先生、コーディネーターの岩崎さんや参加者のみなさん全員いい方たちばかりで楽しいスタディーツアーになりました。現地ではGEJのモン・ソンパーさん、CMACのチャン・ソンパーさん、そしてずっと私たちを案内してくれた日本語完璧なガイドのラーヴォさん心にありがとうございました。 高石 優子

## カンボジアの風を感じて

「カンボジア・スタディ・ツアー」は、地雷除去後の土地の復興や生活再建に取り組む「現在のカンボジア」を知ることを目的として、人々の生活や文化に触れ、地域の人々や子どもたちと交流を図り、必要とされる国際協力とは何か、国際貢献とは何かについて一緒に考える機会となりました。

平成22年度に実施した「カンボジア交流事業」で招聘した3名が、訪問先となるバタンバンやシェムリアップなどで案内役を務めていただき、一般のツアーでは体験できない、バタンバン州スラッパン小学校訪問、CMAC【カンボジア地雷除去センター】地雷撤去現場の見学、CMAC地雷博物館の視察などが実現し、充実した内容となりました。また、どんな状況下でも笑顔を決やさず、たくましく生きるカンボジアの人々との交流をとおして、本当の「豊かさ」の意味を知るスタディ・ツアーとなりました。

参加いただいたメンバー、高石優子さんから寄せられた「バタンバンの思い出」をご紹介します。



★「カンボジア・スタディ・ツアー報告書」は、国際交流協会のHPに掲載しています。 [www.yia.or.jp](http://www.yia.or.jp)

Memories of Yamanashi

昨春来日した県海外技術研修員、県費留学生、派遣職員、自治体協力交流研修員の皆さんが、この度それぞれの研修、研究等を終了しました。山梨での日々や研修等の様子を振り返り、代表して3人の皆さんにさまざまな思いを綴っていただきました。【出身/研修(研究)内容/研修(研究)先】

韓国の忠清北道から山梨の派遣留学生と来県しました。僕が山梨に来る直前、東日本大震災で皆さんが心配していた頃でした。もちろん自分も心配してながらも海外に出て過ごす機会なんてそう簡単にはやって来ることじゃない思い、心配より期待が先に立ちました。

僕は韓国の大学で日本語を勉強し始め、今まで語学・文学や文化などを専攻し、日本の事情を学びました。しかし、専攻していたのにもかかわらず会話能力が乏しかったので、来て一ヶ月ぐらいは緊張の連続でした。ですが、回りの皆さんはとても親切で、すぐに慣れることができました。本当に皆さんには心から感謝の気持ちをお伝えしたいです。

僕は2011年4月27日来県し、ゴールデン・ウィーク直前でした。知り合いもいないし、どう過ごしたらいいのか心配しましたが、回りの方々が「ハイジの村」や横浜、鎌倉まで連れて行ってきて楽しいゴールデン・ウィークを過ごすことができました。

その後、アメリカやブラジル・ペルー・中国など、様々な国から研修生や留学生がやって来りました。昨年までは外国人の友だちはほとんどいなかったで、アメリカやブラジル・ペルーの事情は全く知りませんでした。しかし、皆元気でもしろい人ばかりで、すぐに仲良しになりました。毎年、各

国から違う人がやって来ることは聞いていましたが、今年の研修生・留学生と出会い、本当によかったと思っています。

研修のプログラムとして、さくらんぼ狩りや日本文化体験、キャンプ、富士登山、関西旅行など皆と時間を共有するうちに親しくなり、別れの時がとて辛かったです。

僕の日本語学の勉強は主に山梨県立大学で行われました。僕が韓国で通った学校とは違い、少数の学生でも講座がある点に驚きました。僕は自分が好きな科目を自由に選ぶことができ、興味のある科目を取りました。前期は留学生のための授業(主に日本語の読解や作文など)や日本の歴史を勉強し、後期は僕がいる学部の国際コミュニケーション学部に相応しく英語や中国語、日本語は、文字構成や音韻論など、日本語学の細部まで勉強しました。

僕は自分の先攻を活かして、日本と関係のある仕事をしたいと思っています。だからこそ日本に来て、日本語で話しながら学校に通い、日本語の力がついてきたことを感じて本当に嬉しく思います。しかし、何より嬉しいことは、今まで大切な経験や出会った全ての人々との縁があってこそだと思っています。

山梨で出会った皆さん、本当にありがとうございました！

山梨での尊い縁と思い出



金 鎮皓 (キム ジノ)

韓国/日本語文法  
山梨県立大学

初めて日本に、そして山梨にやって来ました。

成田空港から山梨への道のり、鮮やかな緑に引き寄せられました。澄み渡った青空に、綿のかたまりみたいな白雲はとても綺麗で、緑に覆われた山々は、すぐ近くに見え触ることができるようでした。このような景色を眺め、胸がすっとしました。さすが日本だけあって、自然環境はすばらしいなあと思いました。

6月の中国はすでに暑かったので、涼しい山梨はとても心地よかったです。心を開いています。ふとベランダを見ると思いがけず富士山が目に入り、いとも簡単に日本の象徴である富士山を見ることができてとてもうれしかったです。季節が移り変わるにつれて富士山の姿も変わり、異なる姿を眺めることは贅沢な楽しみでした。

以前から観光地として有名な北海道、中国の人気映画が北海道でロケをしてから、中国でものすごい人気となりました。私も日本に来る前に、北海道に憧れていました。都市の騒がしさがなく、心の安らぎが得られ、見渡す限りのひまわりやラベンダー、なんと綺麗なところでしょう。しかし、山梨に来てから、こんな気持ちになりました。ここは緑がたくさんあって、道が綺麗、いくら歩いても靴はなかなか汚れない、いやなクラクションの音もなく、豊かな自然の中でゆったりと生きている町だと思いました。

特に、ずっと見たかった明野町のひまわり畑を見たとき、言葉で表現できないほど感激しました。山梨で自分の望みが叶えられるなんて驚きでした。太陽の光できらきらし、生き生きしているひまわりを見ると、なんだか体に力を注がれているようで元気になりました。こんな素晴らしい景色を日本で初めて見ました。まるで夢のようで、その美しさに感動し

ました。

夏の山梨は暑いですが、なかなかよい季節です。花がたくさん咲き、フルーツが実り、よい香りが溢れる季節でした。あれほど赤くて、大きなさくらんぼは初めてでびっくりしました。脚立に上り、新鮮なさくらんぼを食べ、十分に満足しました。ブルーベリーの木はこんな感じだったんだと興味津々で写真を撮りました。日本国内生産量一を誇る山梨の桃、甘くて瑞々しくて、食べはじめると止まりません。山梨ならではのブドウで作った自慢のワインは人気を呼んでいます。

何年かぶりに山梨でホテルを見ました。子供のころはよく見ましたが、近年めつたに見られなくなりました。ここ山梨で見ることができ、何となく感動してしまいました。

秋の山梨は紅葉に彩られていました。山にぐるりと囲まれた山梨は赤色に染められ、秋の風情は格別のものでした。空気が澄みわたり、風は涼しくなり、空は芸術的な雲を浮かべてさらに澄んでいます。水が透きとおっている渓谷に紅葉というアングルは、まるで油絵の中の風景でした。

冬の富士山は一番美しいと思います。富士の山頂に雪が積もり、一番富士山らしい景色になります。この白く輝く富士山に魅了されました。富士山を背景に絶好のスポットが数えきれないほどあります。できるだけ全部行ってみたいなあと思いますが、冬はよく晴れ、雪をまとった高い山々がつながって、日光を浴びている巨大な銀色の帯のようです。

高いところから甲府盆地を見下ろすと、市内が余すところなく見渡せ、人間と自然は和やかに共存していると思うと感慨深くなります。

心の安らぎが得られ、気分の落ち着く山梨が大好きになりました。

山梨の美しい自然



胡 彩 (コ サイ)

中国/日本の地方行政  
県国際交流課

2012年、ブラジルへ帰国したら(皆さんがこの記事を読んでいる頃にはブラジルに帰っています。)私はきっと山梨で過ごした日々を思い出すでしょう。ぶどうや信玄餅の味、河口湖のような場所が伝える静けさ。私の故郷であるミナス・ジェライス州の人々を思い出させる山梨県民の飾らない人柄や思いやり。武田信玄の「風林火山」の意味。でもやっぱり一番心に残っているのは富士山です。

来日する以前から富士山は知っていました。日本だけではなく、世界的に有名であり、日本の象徴です。山梨にいた間、国際交流センターの私の部屋から毎日富士山を見ることができました。また、毎朝甲府昭和高校へ行く途中や学校の駐車場からも見ることができました。富士山は遠くから見るととてもきれいです。特に雪化粧したこの時期はきれいです。毎日この景色を眺めていると富士山を大切に思う日本人の気持ちが少しわかる気がしました。富士山が有名なのは美しい景色だけではなく、富士登山も多くの観光客を魅了しています。

体を動かすのが好きな私としては、富士登山は絶好の機会、山梨行きが決まった時から富士登山が私の目標の一つとなり

ました。目標を達成し、富士山を近くから見たとき、このような言い方は失礼かも知れませんが、石と土ばかりで緑がほとんど無く、あまりきれいではありませんでした。さらに頂上までの3,776mの距離を暑さ、寒さ、高度、疲れを乗り切って登るのは本当に大変です。

最初の挑戦は県職員が率いる海外研修員や留学生のグループと一緒に8回目まで行きました。しかし、天気が悪く、危険との判断のため頂上まで行くことをあきらめました。数日後、今度は一人で、頂上まで行く決心を胸に富士山の麓を訪れました。確かに頂上まで行くのは大変で、最後の数メートルは体力の消耗がひどく、夏なのに寒く厳しい登山でした。けれど、頂上からのご来光は本当に素晴らしい体験でした。何かをやり遂げた時の充実感が景色をなお素晴らしいものになりました。

きっとブラジルで、部屋の窓から外の景色を眺め、壮大な富士山の姿がなかった時、はじめて寂しさを感じるのではないかと思います。その時は登山を思い出したり、写真を眺めます。富士山の持つさまざまな姿を知ることができた幸運に感謝の気持ちでいっぱいになることでしょうか。

富士山の姿



アンドレ・ホジャ

ブラジル/体育・スポーツ  
甲府昭和高等学校



from  
ブータン

市川裕美さん



みなさん、こんにちは。JICA 山梨デスクの伊藤です。  
今回の青年海外協力隊の市川裕美さん（ブータン／青少年活動）から届いた活動の様子を紹介します。

2011年はブータンと日本の国交25周年、ブータン国王夫妻の訪日等で話題になりました。その中でもGNH（国民総幸福量）はとも有名になったと思います。近代化を進める中で、国民の幸福や文化、自然を守りながら発展していくという思想です。ブータンは世界初の禁煙国家であり、教育・医療が無料の国です。公の場では民族衣装が義務付けられているなど興味深い国です。外国人が旅行をする際にはガイドを付けなければいけない、各県を移動するときにも許可証が必要である等、鎖国的なところがありますがそのおかげで独自の文化や習慣、人の温かさなど守られているものが多くあります。

ブータンの食生活で欠かせないものが“唐辛子”です。薬味などではなく野菜として唐辛子を料理します。世界一辛い料理があると言われていたほど辛いです。

私はブータンの首都ティンブプーで、青少年たちの長期休みや放課後などの余暇を有意義に過ごせるようなプログラムを企画・実施を行う活動をしています。ブータンではTVやインターネットが解禁になったのが1999年です。外からの情報を得られなかった時代は本当に幸福度が高かったと思います。しかし現在はインターネットやTVのある生活が“普通”である若い世代が育っています。職場で青少年たちと接していると親の世代が守ろうとしているものと、若者たちの好奇心や憧れに大きな差を感じます。

私はブータンが大好きです。これからブータンがどのように進んでいくかわかりませんが、兄弟でなくても年上の子が年下の子の面倒をみるところ、温かい笑顔、助け合う心、家族・友達を大切にし、チベット仏教を信仰し輪廻転生を信じながら、ゆったりと自然に生きる姿は変わらないでほしいと思います。

- 1 タクツァン僧院 2 メモリアル・チョルテン 3 ブナカ・ゾン
- 4, 5 図工の指導 6 レクリエーション・ゲーム 7 ユースボランテアと一緒に

JICA 山梨デスク 伊藤

〒400-0035 甲府市飯田二丁目2-3 (財) 山梨県国際交流協会内  
Tel. 055-228-5419 Fax. 055-228-5473 jicadpd-desk-yamanashiken@jica.go.jp

JICA <http://www.jica.go.jp>



**TOTO リモデルクラブ会員**  
水廻りのリフォームおまかせください。

どんな事でもお気軽にご相談ください。見積もりさせていただきます。



KOFU  
JUTAKU  
SETSUBI

1969年設立  
リフォーム実績500件以上!

信頼と実績、まかせて安心!

**甲府住宅設備株式会社**

〒400-0047 甲府市徳行二丁目10-40  
TEL.055-228-8821 (代)

リフォーム部門

らくすい  
**薬水クラブ**

ハロー みずリフォーム  
**0120-86-3246**

Nesta edição entrevistamos Maisa Hayashi, casada, mãe de 4 filhos, vive em Yamanashi a mais de 17 anos. Veio ao Japão em 1994 como bolsista do Programa de Estágio Técnico da Província de Yamanashi, com o desejo de conhecer a terra natal de seu pai (Nanbu-cho). Ela nos conta sobre suas experiências em Yamanashi e como se envolveu na criação do periódico de Chuo-shi "Manaka".



**Maisa Hayashi**

Brasileira, natural da cidade de Arujá, São Paulo. Formada no curso de Química pela UNESP-Araquara. Foi bolsista da Província de Yamanashi em 1994 quando fez Estágio Técnico de Análise de Alimentos no Inst. de Higiene e Poluição da Província de Yamanashi.

**Hobbie:** Cozinhar (fazer doces e assar pão).

**NY. Sendo criada por pais japoneses, no meio da comunidade nikkey, não deve ter sido muito difícil se acostumar no Japão?**

**Maisa.** Não estranhei muito a parte cultural, mas foi mais difícil me adaptar a língua. O japonês usado no Japão é diferente daquele que aprendi no Brasil, havia muitas palavras novas como colher, que aprendi como "saji" e no Japão as pessoas falavam "supun" (spoon), ou "sokkusu" (sockers) em vez de "kutsushita". Outra coisa que estranhei foi ver as pessoas irem trabalhar de bicicleta, vestindo terno e gravata, ou no caso das mulheres saia. No Brasil bicicleta é usado mais para o lazer do que como meio de transporte.

**NY. "Manaka" é um periódico lançado em abril de 2008 em Chuo-shi. O que levou a criação do "Manaka"?**

**Maisa.** Fazendo serviços de tradução e interpretação, ou ensinando japonês para as crianças que iam as escolas japonesas, comecei a perceber as dificuldades que os brasileiros que não entendem a língua japonesa enfrentavam no Japão. Foi quando conheci o periódico "Zura Zura" de Fujiyoshida, com informações do cotidiano em português. Liguei para Fujiyoshida e conheci a Emília Watanabe. Havia o problema da falta de verba para criar um periódico assim em Chuo-shi, mas a Erica me incentivou dizendo que tudo era questão de força de vontade. Assim decidi tentar, e graças a colaboração e apoio de muitas pessoas, nasceu o "Manaka".

Hoje "Manaka" é um periódico mensal com cerca de 30 páginas com informações de interesse dos brasileiros que vivem em Chuo-shi.

**NY. Você também participa de atividades do grupo "Coração 51"?**

**Maisa.** Antes fazia serviços de tradução e interpretação, mas no momento estou ajudando a fazer uma pesquisa de campo sobre as crianças e jovens estrangeiros que não frequentam a escola. Esta pesquisa vai até março.

**NY. Qual a sua opinião em relação a educação das crianças estrangeiras?**

**Maisa.** O Ensino fundamental (Shogaku e Chugaku) deveria ser obrigatório não só para as crianças japonesas, mas também para as crianças de nacionalidade estrangeira. Seria muito bom se em Chuo-shi também tivesse centros de estudo que ensinam costumes e cultura japoneses antes das crianças começarem a frequentar a escola japonesa, assim como os que existem em Aichi e Gifu. Seria uma oportunidade para as crianças aprenderem a língua japonesa e tornaria mais fácil a adaptação delas nas escolas.

**NY. Na sua opinião, o que é preciso para tornar realidade uma "sociedade multicultural"?**

**Maisa.** Acho que o governo poderia ajudar a melhorar o convívio entre os japoneses e estrangeiros, criando oportunidades para se conhecerem melhor, criando eventos com temas como culinária, esporte e música. Pode ser uma aula de culinária, ou um jogo de futebol. É comum as pessoas não saberem sequer quem mora no apartamento do lado. Os brasileiros muitas vezes trabalham a semana toda e só folgam no domingo, assim fica difícil conhecer as pessoas da vizinhança, ou mesmo participar de eventos da região.

**NY. Qual a sua meta para 2012?**

**Maisa.** Uma de minhas metas é conseguir o certificado de "Kango Helper 2 kyu". No momento estou estudando japonês para fazer o curso.

**NY. Tem alguma dica para os estrangeiros que vivem no Japão?**

**Maisa.** Aprenda a língua. Se vive no Japão, aprenda japonês. Principalmente se você tem filhos. Facilita muito sua vida e torna o dia-a-dia mais interessante.

※ **MANAKA** <http://www.city.chuo.yamanashi.jp/blog/index.php?category=13>

※ **ZURA ZURA** [http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info\\_id=754](http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=754)



## Despedida dos Estagiários 2011

Como o tempo passa rápido! Já nos despedimos dos estagiários que chegaram em 2011 e estamos nos preparando para receber os próximos. Li em algum lugar que, "cada despedida é o começo de um novo encontro", mas como cada pessoa que passa por nosso caminho é especial, segue aqui no NY um breve relato de um dos estagiários sobre a experiência no Japão.



### As faces do Monte Fuji

*André Gustavo Mariano Rocha*

Quando eu voltar ao Brasil em 2012 (quando você ler este texto eu provavelmente já terei voltado), certamente me lembrarei de muitas coisas relativas a Yamanashi. Me lembrarei do sabor das uvas e do shingen-mochi. Da tranquilidade que lugares como o lago Kawaguchi transmitem. Da simplicidade e gentileza que as pessoas daqui têm para com as outras, características que me lembram muito o povo de Minas Gerais, minha terra natal. Lembrarei do significado do "Furinkazan" de Takeda Shingen e muitas outras coisas. Mas o que com certeza ficará marcado em minhas lembranças, será o Monte Fuji.

Antes de vir ao Japão eu já conhecia um pouco sobre a montanha, afinal, ela não é famosa apenas no Japão, mas no mundo todo.

Em Yamanashi tive uma vista privilegiada. Da janela do meu quarto no prédio do Centro Internacional de Yamanashi, é possível ver o Monte Fuji todos os dias. Assim como do caminho que percorria todas as manhãs em direção à Kofu Showa High School, ou mesmo do estacionamento da própria escola. A montanha de longe é realmente bonita, especialmente nessa época de inverno quando a neve dá um toque especial à paisagem.

Acho que contemplar esta paisagem todos os dias me ajudou a compreender um pouco a admiração que os japoneses têm pela montanha.

Mas ela não é famosa apenas por criar um bela paisagem. Escalar o Mt. Fuji faz

parte do roteiro turístico de muitas pessoas que vêm ao Japão e eu como um amante da atividade física, não poderia perder esta oportunidade. A partir do momento que eu soube que viria a Yamanashi, subir o Fuji se tornou um dos meus objetivos. E eu o cumpri.

Vendo-o de perto, eu diria, com o perdão da expressão, que ele não é tão bonito assim. Só se vê pedras e terra, quase nenhum verde. De fato não é a melhor de suas faces. E escalá-lo realmente não é uma tarefa fácil, o que de certa forma deteriora mais ainda a sua imagem. São 3.776 metros de trabalho duro, superando calor, frio, altitude e cansaço extremo.

Tive duas experiências de escalada da montanha. Na primeira, um funcionário do governo da província liderou um grupo formado por mim e pelos outros estagiários e estudantes de intercâmbio de 2011. Em função do mau tempo e por precaução, o funcionário achou melhor abortar a escalada quando estávamos na oitava estação. Dias depois lá estava eu novamente, desta vez sozinho e decidido a ir até o topo.

Realmente não foi fácil. Subir os últimos metros é extremamente cansativo e mesmo no verão no topo faz muito frio. Mas ver o sol nascer lá de cima é uma experiência incrível. O sentimento de realização e dever cumprido por ter chegado ao topo da montanha torna a paisagem ainda mais bela.

Acho que, só quando eu abrir a janela do meu quarto no Brasil e não puder mais contemplar a imensidão do Monte Fuji é que eu realmente sentirei a sua falta. Só me restarão as fotos, as lembranças e a gratidão pela oportunidade de conhecer as suas faces.

## Seminário p/ Intérpretes médicos

Realizado dia 28 de janeiro de 2012, o seminário foi realizado em 2 etapas, sendo a primeira etapa, palestra sobre conceitos de ética para intérpretes médicos, dicas para pessoas que trabalham na área, entre outras informações úteis. A segunda etapa foi dividida em grupos, conforme a língua com que trabalham, sendo feito simulações de casos médicos, para que os participantes pudessem treinar.

Foi uma ótima oportunidade para trocar idéias e informações entre os próprios participantes e tirar dúvidas.

[Segue aqui nossos agradecimentos aos colaboradores e participantes!](#)

## International School day



O Internacional School Day, realizado dia 29 de janeiro de 2012, teve a presença de cerca de 50 pessoas entre participantes, palestrantes e organizadores. As "aulas" foram em inglês, foram sobre temas como cultura, discriminação, etc. em diferentes países.

[Nossos agradecimentos aos colaboradores e participantes!](#)

# Agradecimentos:



Entrega do material arrecadado durante o evento de Natal para ser entregue a escolas nas Filipinas por meio da "Pagsanjan Relief Association" e "KEEP".



Gostariamos de agradecer em especial as pessoas, grupos e empresas que ajudaram a tornar possível a realização deste evento:

Soroptimist International of Yamanashi, Office Color Eight, the Team Sakuraizer and Pro. ZACK!, Yamanashi Eiwa High School Choir, Befree Gospel Choir, Sadoya, Kofu Fujiya Hotel, Oz Printing, Okukyo Ryuo 5th store, Coca-Cola Central Japan, Unimat Life Kofu Business Office, Ventforet Yamanashi Sports Club, FM Fuji, FM Kofu, Harmony, Moon River, Thai Restaurant Lotus, Yamanashi Prefecture Chinese Language and International Exchange Association, Takoyaki do Papai, Yamanashi Taiwan Association, Surya, Restaurant Otio, Mr. Swasti Shakya, Ms. Regiane, Mr. Lasse Holm, Mr. Yann Puzenat, Mr. Takahiro Yamamoto, YETI, e todos os voluntários!

## World Charity Christmas Natal Benéfico realizado em 10 de Dezembro

O Evento Benéfico de Natal foi um sucesso graças a ajuda e participação de todos. Cerca de 370 pessoas, entre colaboradores e visitantes passaram pelo Centro Internacional de Yamanashi neste dia. As crianças se divertiram com o show do Sakuraizer, apresentação de música e as bancas de comidas típicas lotaram. Muita gente aproveitou a oportunidade para comprar lençuinhas de Natal! E é claro não podemos nos esquecer do Papai Noel!

*Agradecemos a presença e colaboração de todos!*

Foi arrecadado 174,650 ienes que serão utilizados para ajudar países em desenvolvimento e regiões afetadas por desastre, por meio do "Fundo para Auxílio Global", além de uma grande quantidade de material escolar.



## Informações úteis:

### Mudanças nas leis de imigração

#### Aos estrangeiros que residem no Japão:

No dia 15 de Julho de 2009, foi determinado a introdução de um novo sistema de controle de permanência a partir de **julho de 2012**.

#### Quem está sujeito ao novo sistema de controle de permanência?

Estrangeiros que possuem qualificação de permanência e residem legalmente no Japão (residente de médio-longo período de permanência). Estarão sujeitos ao novo sistema: nikkei casado com japonês(a) (qualificação de "cônjuge ou filho de japonês" ou "residente longo período"), trabalhadores com qualificação especial ("técnico e/ou especialista", "especialista em ciências humanas/ assuntos internacionais", etc.), estagiários técnicos e/ou especialistas, estudantes e residentes por longo período.

#### Para maiores informações:

Centro de Informações Gerais para Estrangeiros Residentes  
Horário de funcionamento: dias úteis, das 8:30h às 17:15h  
Tel. 0570-01390 (IP, PHS, chamada internacional: 03-5796-7112)

- ※ Japonês- [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/index.html)
- ※ Português- [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/pt/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/pt/index.html)
- ※ Espanhol- [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/es/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/es/index.html)

### "Lei do Livro do Registro Básico de Residente"

A lei atual de registro de estrangeiros será revogada, e a partir de Julho de 2012 e será aplicado o sistema do "Livro do Registro Básico de Residente" para os residentes estrangeiros. Informações em português, acesse:

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/pdf/pol\\_poster.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/pdf/pol_poster.pdf)

### Mudanças de endereço

#### Departamento de Imigração de Tóquio, Escritório de Kofu

O Escritório do Departamento de Imigração de Kofu estará atendendo em novo endereço a partir do dia **20 de fevereiro de 2012**.

**Novo endereço: Yamanashi-ken, Kofu-shi, Marunouchi 1chome 1-18**

**Kofu Goudochosha 9º andar**

(Fica a cerca de 3 min. da saída norte (Kita-guchi) da Estação de Kofu.)

※ O telefone também muda a partir do dia 20 de fevereiro para: **055-255-3350**

Mais informações, acesse o site do Departamento de Imigração do Japão:

<http://www.immi-moj.go.jp>



## Cozinha Internacional

### "Gai Pad King" Frango c/ gengibre Tailandês

#### Ingrediente p/ 4 pessoas:

- 300g peito de frango s/ pele
- 1 cebola (cortado em fatias finas)
- 2 pimentões
- 2 cheiro verde (picado em 3 cm)
- 100g de cogumelo "kikurage" seco (deixar de molho na água)
- 4 dentes de alho (picado)
- 2 gengibres grandes
- 2 colheres (sopa) de shoyu (molho de soja)
- 2 colher (chá) "nan pla" (molho de peixe)
- 2 colher (chá) de açúcar
- 100 cc de caldo de frango
- 2 colheres (sopa) de óleo



#### Dica:

★ Se usar água quente, o cogumelo seco fica pronto para uso em menos tempo.

★ Você encontra o "nan pla" em supermercados comuns.

#### "Gai Pad King"

É um refogado de frango com gengibre típico da Tailândia. Como é feito com bastante gengibre, ajuda a esquentar o corpo por dentro.

É um prato que pode ser apreciado mesmo por quem não tem muita afinidade com comida tailandesa, pois usa pouco "nan pla" (molho de peixe).

**Pichet Sakunjong** (esquerda) **Bunyarit Kingkaewblang** (direita) são os nossos cozinheiros de hoje.

Natural da Tailândia, vieram a Yamanashi por meio de um programa de Intercâmbio da Universidade Provincial de Yamanashi. No momento estão estudando japonês.

O Hobbie dos dois é navegar na internet.



#### modo de fazer:

1. Em uma panela coloque a óleo e refogue o alho picado, até começar a sentir o cheiro de alho. A seguir adicione o frango cortado em pedaços pequenos e refogue.
2. Acrescente o molho shoyu, e refogue o frango. Acrescente o gengibre cortado

em palito (fino). Quando o gengibre estiver macio acrescente a cebola fatiada, o pimentão, cogumelo "kikurage" (cortado no tamanho do frango). Adicione o "nan pla", açúcar, caldo de frango e refogue para incorporar os ingredientes.

3. Por último acrescente o cheiro verde e sirva com arroz.

### Aulas de japonês para estrangeiros

Aulas de japonês para estrangeiros que moram na província de Yamanashi. ※ Aulas Gratuitas

Data: todas as sextas feiras

Horário: das 19:00 às 21:00h

Local: Centro Internacional de Yamanashi (Kofu, lida, 2-2-3)

Informações pelo telefone: 055-228-5419

### Informações em português via e-mail

Receba informações sobre eventos, dicas para vida cotidiana e avisos para casos de emergência no seu e-mail em português. É fácil se inscrever. Envie seu Nome, E-mail, \*telefone e \*endereço para [cristina.s.m@via.or.jp](mailto:cristina.s.m@via.or.jp) ou por fax para o tel. 055-228-5473 aos cuidados de Cristina.

\* dados não obrigatórios

Assoc. Internacional de Yamanashi, tel. 055-228-5419

### Consultas e aconselhamentos jurídicos gratuitos

Serviço de consulta e aconselhamento jurídico sobre diversos assuntos, gratuito para estrangeiros residentes em Yamanashi.

\*\*\*Consultas somente c/ agendamento\*\*\*

Primeira quarta-feira do mês 18.30h às 21h (agendar até terça, 17h)

Terceiro domingo do mês 13h às 16h (agendar até sexta, 17h)

Local: Centro Internacional de Yamanashi (Kofu-shi, lida, 2-2-3)

Informações pelo telefone: 055-228-5419

## VOICE from Yamanashi - MAISA HAYASHI



Maisa Hayashi was born in São Paulo and graduated from the University of São Paulo in chemistry. She went to Japan for the first time in 1994, as an overseas technical trainee. She is currently living in Chuo City, where she has a busy life taking part in the local newsletter called Manaka and the portuguese translation of Yamanashi nichinichi Shimbun's multilingual corner, all the while raising her four children. She is also a member of an association called Heart 51, where she does translation/interpretation, and examines the number of foreign children and youth not going to school.

### Why did you decide to come to Japan as a technical trainee?

**M:** I wanted to see the country where my parents are from, but I didn't speak Japanese.

### Did you have to deal with culture shock at that time?

**M:** I was surprised by men in suits and office ladies riding bikes. In Brazil, we ride bike for fun. I was also confused by words coming from English like "spoon" and "socks", because I learned old Japanese in Brazil. But overall, I didn't feel so much culture shock.

### What made you start taking part in the writing of the newsletter Manaka?

**M:** My children are going to a school where there are other foreign children. Some of them cannot attend classes because they don't speak Japanese, and I realised which problems parents who don't speak Japanese and the Brazilian community has to go through. I started advising them and teaching Japanese to the older children arriving to Japan. I was impressed by the Fujiyoshida City newsletter called Zura Zura and talked to the person in charge of Portuguese, who convinced me to start one for Chuo City.

### What do you think about the education system in Japan towards foreign children?

**M:** I think education should also be mandatory for foreign children. As in Aichi

and Gifu, there should be facilities in Chuo City where children can get ready before entering a Japanese school.

### Have you heard about foreign children being victims of bullying at school?

**M:** It seems like Japanese children don't really know how to come in contact with children who don't speak their language. Therefore, some kids might feel like they're being ignored. But there are differences between children with cheerful personalities who can easily make friends and adapt to differences in school life, and shy ones who have more difficulties.

### Do you have opportunities to meet with other foreigners?

**M:** I sometimes meet with people from China or Korea. I think the Japanese government should put more efforts into the promotion of multiculturalism. In Chuo City, where there are many Brazilians, there should be more places for interaction between the two communities. For example, soccer tournaments or cooking classes.

### What is your aim for 2012?

**M:** I want to get a 2nd level helper nursing qualification. In order to do this, I am going to the Japanese language class organized by Heart 51 for people wanting a nursing qualification.

### Do you go back to Brazil often, or are you planning to live in Japan all your life?

**M:** The last time I went to Brazil was 11 years ago. It's hard to go back with my children. My four children were all born and raised in Japan, and life in Brazil is more difficult than it is in Japan. Therefore, I am planning to study and get qualifications in order to live in Japan.

### Do you have any advice for foreigners living in Japan?

**M:** I think people living in Japan should try to learn Japanese, especially parents, who should learn Japanese for the sake of their children. By learning Japanese, everyday life can become really fun, and people are able to participate in many events.

## World Charity Christmas Report



You might have heard about the famous Japanese Christmas song, "Awatenbo no Santa Claus" ("The Hasty Santa Claus"). It seems as if it was made for the International Center's Christmas celebration, which always occurs around two weeks before the actual date of Christmas.

On December 10th, around 370 people gathered at the International

Center to celebrate the Christmas Season. As usual, it was a great opportunity for Yamanashi citizens and foreigners living in the prefecture to share and have fun together.

From the morning, children enjoyed a Show featuring Sakurazier, the greatest Hero in Yamanashi. Santa Claus was of course also in the area, posing with the kids while distributing candies. At twelve, one was able to savor delicious food from many countries and enjoy the Christmas Market.

This year's fantastic Christmas Show featured the traditional Christmas raffle, a handbell group, a gospel choir, and the rock band Pro.ZACK!

In total, we managed to raise 174,650 yen, which will be donated to Global Support Project, a project created by the Yamanashi International Association to collect money for organizations in developing countries and disaster areas. We also collected stationary which will be brought to schools in the Philippines through the Pagsanjan Relief Association and KEEP.

We would like to thank all the groups and people who lent their assistance for the amount raised by the fundraiser and the overall success of the event:

Soroptimist International of Yamanashi, Office Color Eight, the Team Sakurazier and Pro.ZACK!, Yamanashi Eiwa High School Choir, Befree Gospel Choir, Sadoya, Kofu Fujiya Hotel, Oz Printing, Okukyo Ryuo 5th store, Coca-Cola Central Japan, Unimat Life Kofu Business Office, Ventforent Yamanashi Sports Club, FM Fuji, FM Kofu, Harmony, Moon River, Thai Restaurant Lotus, Yamanashi Prefecture Chinese Language and International Exchange Association, Takoyaki do Papai, Yamanashi Taiwan Association, Surya, Restaurant Otio, Mr. Swasti Shakya, Ms. Regiane, Mr. Lasse Holm, Mr. Yann Puzenat, Mr. Takahiro Yamamoto, YETI, and all the volunteers.



## Cooking @ Home - by Pichet Sakunjong & Bunyarit Kingkaewblang

## Thai Ginger Chicken



Good to know!

### Recipe ingredients (4 servings)

- 300 g of chicken breast meat
- 1 onion (cut into slices)
- 2 green peppers (finely sliced)
- 2 scallions (cut into 3 cm lengths)
- Dry kikurage (wood ear mushroom) (100g)
- Garlic (finely chopped)
- Ginger (finely sliced)
- Soy sauce (2 tablespoons)
- Thai fish sauce (nam pla) (2 tea spoons)
- Sugar (2 tea spoons)
- Chicken stock (100 cc)
- Cooking oil (2 tablespoons)

### Instructions:

- On a fry pan, cook the garlic in hot oil. Once the garlic emits an aroma, add the chicken cut to bite-sized pieces.
- Add the soy sauce, then add the ginger once the chicken has been thoroughly cooked. Add the onions, the green pepper and the kikurage cut to bite-sized pieces after the ginger becomes tender. Add the fish sauce, the sugar and the chicken stock, and cook until all the ingredients are mixed together.
- Finally, add the scallions and enjoy your dish with rice.

- Soak the dry kikurage into hot water before cooking them
- Nam pla should be sold in your nearby supermarket
- Ginger will warm your body during the cold winter days

### To all foreign nationals residing in Japan (from the Ministry of Justice - Immigration Bureau):

Beginning on Monday, July 9, 2012, Start of a new residency management system.

**Internet Link:** [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/en/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/en/index.html)

**Tel (Immigration Information Center):** 0570-013-904 / for IP and PHS phones 03-5796-7112 (8:30~17:15, weekdays)

### Information to all foreign nationals living in Japan (from the Ministry of Internal Affairs and Communications):

A new resident registration system for foreign residents will begin in July 9, 2012. This will replace the Alien Registration System.

**Internet Link:** [http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/pdf/eng\\_page.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/pdf/eng_page.pdf)

**Tel (until 30th March 2012):** 0570-066-630 / for IP and PHS phones 048-610-8779 (8:30~17:30, weekdays)

### Tokyo Regional Immigration Bureau, Kofu Branch Office - Notification of Office Relocation

The Kofu Branch Office was relocated to the Kofu Government Building (North Exit of Kofu Station).

■ New Location: **Kofu Government Building, 9th Floor 1-1-18, Marunouchi, Kofu, Yamanashi/Tel.055-255-3350**

\* Please note, the telephone number will change.

■ Three minute walk from the North Exit of JR Kofu Station

\* Please use public transportation to and from the Kofu Branch Office.

## ビジネスサポート BUSINESS SUPPORT



こんな時は私たちに相談ください！！

ビザの延長や変更の手続きは？ 国際結婚の手続きは？ 永住／帰化の手続きは？

Consult us about...

- ・ renewal VISA
- ・ changing of status of residence
- ・ an international marriage
- ・ naturalization
- ・ permanent residence

We are helping for foreigners to apply for all kind of VASA.

ビジネスサポート行政書士事務所 (申請取次行政書士 藤原 進)

〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1666 TEL:055-233-0211

営業時間 08:30~18:30 (土、日、祝日は休業)



MAISA HAYASHI

林 マイザ

ブラジル サンパウロ州アルジャー町生まれ。サンパウロ州立大学化学学士取得。平成6年、県海外技術研修員として来県し、県衛生公害研究所で食品の残留農薬分析等を研修する。

現在、中央市が発行しているポルトガル語版生活情報誌「MANAKA」の編集、翻訳、山梨日日新聞「多言語ウィークリーニュース」翻訳他、多文化共生を考える会「ハート51」のスタッフとして多忙な日々を送る。趣味はお菓子やパン作り。

夫、4人の子もたちと中央市在住。

南部町出身の父のルーツを知りたい、そんな思いから平成6年、山梨県海外技術研修員として来県したマイザさん。結婚し、4人の母親となり、山梨で暮らしはじめてからすでに17年が経ちました。山梨での生活から見えてきたもの、「MANAKA」との出会いなどをお聞きました。

■日本人の両親の間に育ち、日系社会で暮らしてきたマイザさん、初めて来日した時、あまり違和感を感じなかったのでは？

M: 文化の面ではあまり違和感を感じませんでしたが、ことばで戸惑いました。ブラジルでは昔使われていた日本語を聞いていたので、たくさん英語が混じった今の日本語に慣れるまでに少し時間がかかりました。たとえば、さじをスプーンと言われたり、靴下をソックスと言われたり。

また、サンパウロでは通勤で自転車に乗るという習慣がなかったので、山梨に来てから、朝夕、スカートをはいたOLやスーツ姿の男性たちが自転に乗っている姿を目の当たりにしてありえないと思いました。自転車に乗るのは山に行ったり、海に行ったり、レジャーのときです。

■2008年4月から中央市のポルトガル語版生活情報誌「MANAKA」を発行。きっかけは？

M: 中学校でポルトガル語の通訳や日本語指導を頼まれ、そこで両親、子どもたち、教師それぞれが抱えている悩みを知りました。そんな時、富士吉田市のポルトガル語版生活情報誌「ZURA ZURA」と出会いました。中央市にもポルトガル語の情報誌があったらと思い、ちょうど子育てが一段落した時でもあったので、早速担当の渡辺エミリアさんに問合せしてみました。ただ予算の問題など課題がありました。エミリアさんから「やる気だよ。」と背中を押され、とりあえずやってみることにしました。中央市は山梨の真ん中、そこから「MANAKA」が生まれました。

■「MANAKA」を発行してから3年。振り返ってみていかがですか？

M: 現在、30ページの月刊情報誌として発行しています。中央市の広報紙からブラジル籍住民に必要な情報をピックアップ

プし加藤デイジさんと二人で翻訳作業を進めています。お陰さまで企業協賛をいただくまでとなりました。

■市民団体「ハート51」でも活動をしていると聞きました。

M: 以前は翻訳や通訳の仕事をしていましたが、今は外国人の子どもや若者を対象に不就学の実態調査を行っています。(3月まで)

■今現在の外国籍児童の教育に関してどう思いますか？

M: 外国籍の子もたちも小中学校は義務教育であるべきだと思います。愛知や岐阜県にあるような就学前のプレスクールが中央市にもあったらと思います。そこでは日本での生活や文化、日本語の基礎を学ぶことのでき、子どもたちにも学校現場にもプラスになっています。

■「多文化共生社会」を実現させるために必要なことは？

M: 行政にお願いなのですが、料理、スポーツ、音楽などをおして日本人、外国籍住民が互いに知り合う機会を作ってほしいと思います。隣に住んでいるけれど誰だかわからないのが現状です。ブラジル人のほとんどは日曜日だけが休み、なかなか地域のおつきあいができない状態なんです。

■外国籍住民に何かアドバイスをお願いします。

M: 何をするのにまずはことばから。日本語を身につけてください。

\* 「MANAKA」 <http://www.city.chuo.yamanashi.jp/blog/index.php?category=13>

\* 「ZURA ZURA」 [http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info\\_id=754](http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=754)

現在マイザさんは、介護ヘルパー2級を目指し、そのための日本語を学んでいます。子ども達のため、将来のために資格を取りたい、勉強ははずっと続けて行きたいと静かに、そして熱く語ってくれました。

## クッキング @ ホーム



ピチュート・サクンチョンさん(左/通称ゴーン)とブンヤリット・ギンゲウランさん(右/通称ジャック)は、タイナコンラチャシマ県出身。(バンコクから東北へ約3時間)

2011年9月、山梨県立大学交換留学生として来日し、日本語を勉強中。二人ともネットサーフィンが趣味。

### 「ガイパッキン」(タイ家庭料理)

材料(約4人分)

- 鶏の胸肉(皮は取り除く)..... 300g
- 玉ねぎ(薄くスライス)..... 1個
- ピーマン(細切り)..... 2個
- わけぎ(3cm程度にカット)..... 2本
- 乾燥キクラゲ(戻す)..... 100g
- にんにく(みじん切り)..... 小4個
- しょうが(細切り)..... 大2個
- 醤油..... 大さじ2
- ナンプラー..... 小さじ2
- 砂糖..... 小さじ2
- 鶏ガラスープ..... 100cc
- サラダ油..... 大さじ2

「ガイパッキン」は、「鶏肉のしょうが炒め」のこと。

たっぷりしょうがを使っているので、体の中からポカポカと温まってきます。

ナンプラーもわずかな量なので、タイ料理が苦手な人でもおいしくいただける一品です。

### 作り方

- 熱した鍋にサラダ油を入れ、みじん切りにしたにんにくを炒める。香りが出てきたら、一口サイズにカットした鶏肉を加え炒める。
- しょう油を入れ、鶏肉に火が通ったら細切りにしたしょうがを入れ、しんなりしてきたところで、スライスした玉ねぎ、ピーマン、一口サイズにカットしたキクラゲを加える。ナンプラー、砂糖、鶏ガラスープを加え、全体がからむように炒める。
- 最後にわけぎを加え、味を整えてでき上がり。ご飯と一緒にどうぞ！



### ワンポイント!

- キクラゲは湯で戻すと時間短縮に。
- 「ナンプラー」は一般のスーパーマーケットで購入可。



伝えたいをカタチにする一滴

<http://www.ozp.jp>

出版 印刷 紙工  
**有限会社 オズプリンティング**  
 ☎ 055-235-6010(代)

〒400-0032 甲府市中央3丁目8-10 FAX:055-232-4098 E-mail: info@ozp.jp

## World Charity Christmas 2011 ご協力ありがとうございました！



昨年12月10日、国際交流センターにて恒例の「ワールド・チャリティ・クリスマス」が行われ、およそ370名の皆さんにお越しいただき誠にありがとうございました。参加費や抽選会、各国料理ブースの売上げ等の収益金の一部174,650円は、開発途上国の教育や医療レベルの向上、大規模災害等の被災地域に役立てる目的で募金活動等を行っている「グローバル支援事業」を通じて使わせていただきます。



また、当日お寄せいただいた文房具等は、バグサンハン児童支援協会（写真左上）及びキープ協会（写真左下）を通じて、フィリピンの子どもたちへ届ける予定です。

ご協力をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。



### ■ ご協力いただいた団体・個人の皆さま

国際ソロプチミスト山梨、(株) オフィス Color Eight (チーム・サクライザー、Pro.ZACK!) 山梨英和高等学校聖歌隊、(株) ビーフリー、(株) サドヤ、甲府富士屋ホテル (株)、(有) オズプリンティング、奥藤 竜王第五分店、ココ・コーラセントラルジャパン (株)、(株) ユニマッドライフ、(株) ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ、(株) エフエム富士、(株) エフエム甲府、フェアトレード雑貨「ハーモニー」、Moon River、タイ家庭料理「ロータス」、NPO 法人 山梨県中国語・国際交流会、Takoyaki Do Papai、山梨台湾総会、スーリヤ、レストラン「オチオ」、Swasti Shakya さん、レジアネ・ミエコ・サ・ヤマグチ・アクギユルさん、ラッセ・ホルムさん、ヤン・ピュゼナさん、山本高広さん、Yamanashi English Teachers International 他ボランティアの皆さま

『外国人住民実態調査』調査結果を国際交流協会 HP に4月より掲載します。 [www.yia.or.jp](http://www.yia.or.jp)

## 日本に在留する外国人の皆さんへ お知らせください！

### ● 2012年7月入管法が変わります。 新たな『在留管理制度』がスタートします！

平成21年(2009年)7月15日、「出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律」が公布され、新たな在留管理制度が平成24年(2012年)7月(注)から導入されることになりました。

(注) 施行日は政令で定めます。

[http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/index.html)

- Portugues [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/pt/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/pt/index.html)
- Espanol [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/es/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/es/index.html)
- English [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/en/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/en/index.html)
- 中文(簡体字) [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/zh-CN/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/zh-CN/index.html)
- 中文(繁体字) [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/zh-TW/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/zh-TW/index.html)
- 韓国語 [http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/ko/index.html](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/ko/index.html)

### ● 外国人住民に係る住民基本台帳制度について ～外国人住民が新たに住民基本台帳法の適用対象に加わります～

詳細は以下のサイトをご覧ください。

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/zairyu.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/zairyu.html)

### ■ 問合せ 外国人在留総合インフォメーションセンター

Tel. 0570-013904 / IP 電話・PHS・海外から Tel. 03-5796-7112

## 『東京入国管理局甲府出張所』 庁舎移転のお知らせ

とうきょうにゆうこくかんりきょく こうふしゅつちやうじよ  
東京入国管理局甲府出張所は、甲府合同庁舎内(甲府駅北口)に移転しました。

- 移転先 甲府市丸の内 1-1-18 甲府合同庁舎 9階  
Tel. 055-255-3350 (電話番号は変更になりました)
- 交通機関 JR 甲府駅北口徒歩 3分  
\* 御来庁の際は公共の交通機関をご利用ください。

## 国際交流センターをご利用下さい

国際交流センター会議室の貸し出しを行っています。  
<http://www.yia.or.jp/kaigishitu.html> (詳細はこちらへ)

### 会議室使用料

	午前	午後	夜	全日	超過料金
	9:00a.m. 12:00a.m.	1:00p.m. 5:00p.m.	6:00p.m. 9:00p.m.	9:00a.m. 9:00p.m.	1時間 Per hour
大会議室 Large Conference Room	2,200円	3,310円	3,310円	8,830円	730円
小会議室 Meeting Room	720円	1,100円	1,100円	2,910円	240円

## 会員登録をありがとうございました！

### 個人会員 (入会順・敬称略)

11月～1月 12名

### 団体会員 (入会順・敬称略)

- 11月 山梨 YMCA 市川三郷町国際交流協会 山梨台湾総会 国際ソロプチミスト山梨一芙蓉 PACHAMAMA
- 12月 国際ソロプチミスト山梨一南 日中交流情報センター ラボ国際交流センター山梨
- 1月 山梨市国際交流促進委員会 ユニタス日本語学校



## 「にほんご講座」

と き 毎週金曜日 午後7時～9時  
 ところ 県立国際交流センター  
 対象 県内在住で日本語を勉強したい人

## 「外国人なんでも相談」

と き 第1水曜日 午後6時30分～9時  
 第3日曜日 午後1時～4時  
 ところ 県立国際交流センター  
 相談員 法律専門家上條 醇氏、金 亮完氏  
 通訳 林ジョニー氏  
 言語 ポルトガル語、スペイン語、英語、インドネシア語、日本語  
 ※ 必要に応じてその他の言語対応可  
 費用 無料

## 3月

### 「外国人住民の暮らしを考える意見交換会」

外国人住民への「多言語生活基本情報リーフレット」(仮)と「災害ガイドブック」作成に向けて市町村担当者や関係団体等を交えて、意見交換を行います。  
 と き 3月中旬  
 ところ 県立国際交流センター

## 5月

### 「外国語&外国語文化講座」

英語、フランス語、イタリア語、スペイン語の他、新たに「ハワイアン・フラ講座」が加わる予定です。  
 と き 5月第2週目から全10回  
 ところ 県立国際交流センター  
 ※ 募集開始は、4月以降となります。

問合せ(財)山梨県国際交流協会  
 TEL 055-228-5419  
 ※ 各イベントの詳細はチラシをご覧ください。

## Free Legal Consultation for Foreigners - on Wednesdays and Sundays

**When:** Every first Wednesday night of the month. From 6:30 pm to 9 pm. and every third Sunday afternoon of the month. From 1 pm to 4 pm.  
**Where:** Yamanashi International Centre.  
**Interpreter:** Johnny Hayashi.  
 The consultation is available in English, Indonesian, Portuguese, Spanish and Japanese. The service is FREE OF CHARGE.  
 \* Mr. Hayashi is accompanied by other legal professionals.

## Japanese Language Class

**Time:** Every Friday night, 19:00~21:00  
**Location:** Yamanashi International Centre.  
 The class is for foreign residents in Yamanashi and is FREE OF CHARGE.

## May

### Foreign Language and Culture Classes

English, French, Italian and Spanish classes, as well as the new Hawaiian Hula Dance class.  
**Time:** starts from the 2nd week of May (10 weeks)  
**Location:** Yamanashi International Centre.  
 \* The applications will start in April.

## Consultas e aconselhamentos jurídicos gratuitos às quartas-feiras e aos domingos.

(com reservas antecipadas)  
**As quartas-feiras:** toda primeira quarta-feira do mês. Das 18h30 às 21h.  
**Aos domingos:** todo terceiro domingo do mês. Das 13h às 16h.  
**Local:** Yamanashi International Center (Kofu-shi, Iida 2-2-3)  
**Advogado:** Atsushi Kamijo / Yangwhan Kim (Professores de direito da Universidade Yamanashi Gakuin)  
**Intérprete:** Johnny Hayashi (Português, espanhol, bahasa, inglês e japonês).  
 ※ Dependendo das necessidades do consulente, providenciaremos intérpretes para outros idiomas na medida do possível.

## Aulas gratuitas de japonês

**Data:** todas as sextas-feiras, das 19 às 21h.  
**Local:** Centro Internacional de Yamanashi  
**Público-alvo:** todos os estrangeiros residentes na província e que tenham interesse em aprender o idioma japonês. O curso é gratuito.

## Maio

### Cursos de Língua e Cultura Estrangeira

Além dos cursos tradicionais como inglês, francês, italiano, espanhol, etc, teremos o curso de "dança havaiana"  
**Data:** a partir da 2ª semana de maio (10 aulas)  
**Local:** Centro Internacional de Yamanashi  
**\*inscrições abertas a partir de abril.**

### 多言語新聞

#### 4カ国語版ウイークリーニュース山梨!

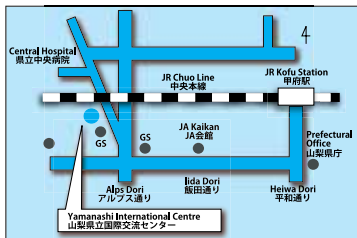
山梨日日新聞社では、県内の一週間の主なニュースや山梨県国際交流協会からのお知らせを、日本語、韓国語、英語、ポルトガル語の4カ国語で紹介しています。  
 山梨日日新聞、毎週火曜日発行の「テレビガイド」の中間です。

#### “JORNAL SEMANAL MULTILINGUE DE YAMANASHI EM QUATRO IDIOMAS”

O jornal Sannichi Shimbum publica semanalmente as principais notícias e acontecimentos da província além de informações da Associação Internacional de Yamanashi em quatro idiomas: japonês, coreano, inglês e português.  
 A publicação é feita todas as terças-feiras e se encontra no verso da página “Kodomo Weekly” do jornal.

#### “YAMANASHI MULTILINGUAL NEWS WEEKLY”

The Yamanashi Multilingual News Weekly is published every Tuesday by Sannichi News, which focuses on major news issues and announcements from the Yamanashi International Association. Please refer to the page inside the TV program for further information, available in Japanese, Korean, English and Portuguese.



## 編集後記

先日、「カンボジア・スタディ・ツアー」の団長で都留市立生第二小学校の高山校長先生が、全校児童の皆さんへスタディ・ツアーの報告会を行いました。スクリーンに映し出されたカンボジアでの交流の様子などに加え、ツアーで音楽交流を担当した岩崎さんも参加。カンボジア民謡「アラビア」では、児童たちも一緒に口ずさんだり、パーカッションに参加したりと、さまざまな顔を持つカンボジアを体感できた素敵な報告会となりました。カンボジアのマーケットで200枚ものカンボジアのスクーフ、クロマーを購入し、児童一人ひとりに贈った高山先生。子どもたちにカンボジアはどう映ったんだろう。伝えていく、つなげていくことの大切さを感じたあたたかい報告会でした。どこにいても子ども達の笑顔は宝ものです。

雨宮

Este está sendo um inverno bem rigoroso (a ponto de pela primeira vez em 2 anos ter o rio perto de casa congelado). Mas nesta época, podemos encontrar paisagens exuberantes em diversas partes do país. Desde paisagens decoradas pelo branco da neve e o reflexo do gelo, assim como o azul do céu que se torna mais límpido durante o inverno (um belo exemplo em Yamanashi é o “Diamond Fuji”). Mas não vejo a hora de poder apreciar o desabrochar das flores de cerejeira.

Cristina

Let's dry vegetables!  
 As you might know, Yamanashi is famous for being a sunny prefecture. Why not use that feature to your advantage by drying your left-over vegetables? After washing and wiping off them well, cut your vegetables in thin slices and put them in a draining basket on your balcony for a few days—you'll get dry vegetables that you can conserve and cook the way you like! Dry your vegetables in a sunny and windy place, and avoid the rainy season. You can also dry fruits in the same way.

Victor

## Yamanashi

2012年3月・4月・5月号

- 発行 財団法人山梨県国際交流協会
- 編集 雨宮由里恵 真砂クリスティーナ  
 ヴィクトール・バルザン
- イラスト 松岡瑠理子
- Published by  
 Yamanashi International Association
- Edited by  
 Yurie Amemiya Cristina Masago Victor Balsan
- Illustrated by  
 Ruriko Matsuoka

〒400-0035 甲府市飯田2-2-3  
 tel 055-228-5419 fax 055-228-5473  
 2-2-3 Iida, Kofu-Shi, Yamanashi-ken,  
 Japan 400-0035

The International centre is open daily from 9:00am to 9:00pm except on Mondays and on the day following a national holiday.

URL [www.yia.or.jp](http://www.yia.or.jp)

MAIL [webmaster@yia.or.jp](mailto:webmaster@yia.or.jp)